

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 6 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520629

研究課題名（和文） 小中連携に向けた英語授業改善：教師の授業・習得観の差異分析と「橋渡し指導」の開発

研究課題名（英文） Towards a Smooth Transition between Primary School English and Junior High School English: Instructional and Curricular Suggestions Based upon the analysis of Teachers' Beliefs on English Teaching and Learning

研究代表者 萬谷 隆一 (YOROZUYA RYUICHI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20158546

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、小中の教師の授業観、評価観、習得観などにかかわる信条の本質的な違いを明らかにすることである。また、そうした学校種間の意識差を埋めるために、どのような方策が可能なのか、事例を収集し、連携の方策を探った。

Multivocal Ethnography という、具体的な授業映像を参照し、自由に意見を表明された発言を分析する方法により、小中の教員がお互いの英語授業について感じた感想から、そうした発言の背景になっている授業観、評価観、習得観の差異を明らかにした。また、とりわけ中学校英語教員が抱いている意識を明らかにすることが、今後の小中連携を進める上で重要になるため、上記研究結果をより客観性を高めて検証するため、被験者数を増やした質問紙調査を中学校教員に実施し、より一般化できる研究結果を求めた。また、本研究では、小中連携にかかわる実践事例の蒐集により実践の方向性を指し示した。

研究成果の概要（英文）：After the implementation of elementary school foreign language(English) language activities, there has been a growing need of bridging the gap between elementary school and junior high school English language education.

The purpose of this study is to investigate elementary and junior high school teachers' beliefs about English language learning and teaching. Two studies were conducted. In the first study a research method called multivocal ethnography was adopted which asked a group of elementary school teachers to view a lesson video of a junior high school teacher and discussed what they noticed about the lesson. Another group of junior high school English teachers were shown a video of an elementary school lesson of English language activities and exchanged their views about the lesson. All the discussions were transcribed and were analyzed.

A comparison of the data showed that the elementary school teachers were concerned with children's willingness to communicate and motivation, whereas the junior high teachers were generally concerned more with students' acquisition of English.

In the second study, in order to verify the results of the first study, particularly concerning the beliefs of junior high school teachers, a questionnaire survey was conducted. The survey showed that junior high teachers had some positive and negative impressions. These observed impressions were used to develop questionnaire items for the second study to quantify junior high teachers' current perceptions regarding elementary school English activities. The survey is in progress and will be reported in 2012.

Along with the above mentioned studies, this research project also sought to find practical measures and ideas to connect elementary school English activities and junior high school English. Nine pioneering cases of projects that attempted to elementary and junior high English were collected nation-wide, which show various ideas to connect the two school levels.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
21年度	800,000	240,000	1,040,000
22年度	500,000	150,000	650,000
23年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：(1) 外国語活動 (2) 小中連携 (3) 小学英語 (4) 小学校外国語活動

1. 研究開始当初の背景

小学校外国語活動の必修化は、英語教育の再編を意味する。小学校教師はその大きな変革への取り組みを始め、変化を受け入れつつある。しかし、一方、従来から初めて英語を学ぶ学習者を想定して指導を進めてきた中学校英語は、実は最も変革が求められていることは、一般にあまり認識されていない。小学校外国語活動を受けて、中学校英語がその良さを引き継ぎ伸ばし、さらなる高みに学習者を導くためには、中学校英語の新時代における役割を再確認し、英語教育の質的変換を求めなくてはならない。

2. 研究の目的

そのためには、現状と現実の把握が必要であり、本研究は小中連携の方向性を探るための、基礎となる小中の教師の意識の違いを明らかにし、その示唆するところを探る。具体的には、小中の教師の授業観、評価観、習得観などにかかわる信条の本質的な違いを明らかにすることである。また、そうした学校種間の意識差を埋めるために、どのような方策が可能なのか、事例を収集し、連携の方策を探る。

3. 研究の方法

Multivocal Ethnography という、具体的な映像資料などを参照し、自由に意見を表明された発言を分析することにより、被験者が抱いている授業観、評価観、習得観などを明らかにする。また、その研究結果を別の角度からより客観性を高めて検証するため、被験者数を増やした質問紙調査を行い、より一般化できる研究結果を求めた。

4. 研究成果

初年度はMultivocal Ethnography を用いて、本研究は小学校教師が中学校の英語授業を見たときに抱く疑問・反応、あるいは中

学校教師が小学校の英語授業を見たときに表明された疑問・反応を分類し分析した。そこに反映された教師の信条から、まず総体的には、小学校では子どもの態度目標とコミュニケーションへの積極性が重視され、中学校ではスキル習得それ自体が目標であるということが明確になった。

小学校教師たちが中学校授業に対して表明した感想としては、1) 中学校の授業のゴールが、コミュニケーション活動というよりは、教科書の暗記や発表活動などスキル練習であることへの疑問、2) 子どもたちが進んで課題解決に取り組む授業が小学校で重視されるという自己認識、が表明された。また、3) 中学校の授業のペースが速く、小学校に比べて生徒一人一人への配慮が十分でないのではないかという疑問、4) 外国語活動に人間関係・学級作りの役割を持たせるという要素が中学校でも配慮されるのかという疑問、等が表明された。一方、中学教師は小学校授業を見て、1) 難しい項目の練習不足への懸念、2) 電子黒板より教師の肉声の方が生徒の集中を促すこと、3) リポート量の不足等、指導の効率や定着の工夫についての意見表明が見られた(萬谷、中村、神林、中村2010)。

以上のMultivocal ethnographyの手法によって抽出された小学校教師の意識および中学校教師の意識の違いが、はたして多くの教師によって共有されているものなのかどうか、最終年度においては、被験者数多くし、質問紙法の調査方法によって、再検証した。最終結果は未発表であるが、その概要を示す。

調査は2段階で行い、まず第1次調査において、中学校教師が外国語活動に対して肯定的あるいは批判的にとらえている側面を明らかにし、外国語活動に対する中学校英語教師(n=54)の意識の傾向性を探った。その結果、プラス面およびマイナス面として以下のカテ

ゴリーが観察された。

1) プラスのイメージ

スキル面 (発音、語彙、リスニング、スピーキング、音声への慣れ等)  
態度面 (積極性、抵抗感の低さ、外国人と接する積極性等)  
動機面 (動機の高さ)

2) マイナスのイメージ

学習モード面 (小中間での学習モードのギャップ)  
スキル面 (書くことへの抵抗感、文字指導の不足等)  
動機面 (英語嫌い)  
評価面 (評価方法のギャップ)  
個人差・学校差

これらを元に、第2次調査として、アンケート項目を開発し、100名程度の中学校英語教師に回答してもらうことになっている。その結果は、2012年度小学校英語教育学会研究大会(H24年7月)において発表する予定である(萬谷・中村・志村・宮下2012)。

この分析結果により、昨年度までに行った、少数から抽出された小中学校教師の意識差を、一般化できるかどうかをより客観的に検証することができる。

本研究により、英語教育における小学校教師と中学校教師の指導観、習得観、学習者観において、明らかな差異があることが明らかになったが、その溝を埋める努力が必要である。その方策については、書籍を出版し、小中連携を推進するための学問的知見と基本的な認識の整理を行い、同時に全国的なレベルでの実践事例の蒐集により実践の方向性を指し示した(『小中連携Q&Aと実践 - 小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ40のヒント』(萬谷、直山、卯城、石塚、中村、中村編著)。

当該書籍においては、英語教育における小中連携にかかわり、学問的知見と実践の基本的認識を整理し、また実践の類型を示し、特に以下の4点について提言・提案をまとめた。

- 1) 小学校外国語活動と中学校英語科の違い  
両者の本質的な違いとして、基本理念および目標、コミュニケーションの捉え方、指導方法、カリキュラム、評価、4技能の扱い等の視点から整理した。
- 2) 小学校教師と中学校英語教師の違い  
小学校教師と中学校英語教師は、指導観・習得観・学習者観等においてきわめて異なった意識を持っており、それを自覚し、また互いの理解を深める必要性を明らかにした。

3) これからの中学校英語科の授業

今後の中学英語は様々な質的变化が必要となるが、とりわけ小学校での外国語活動から中学校英語に橋渡しする際に、動機面・学習面でいかにグレードアップするべきかを考える視点として、指導方法、文法指導、リテラシー、シラバス、入門期の留意点等から具体的に提言をまとめた。

4) 事例から見る小中連携の実践の方向性

全国から小中連携にかかわる実践を集め、現実的な授業実践や児童・生徒のレベルから、有効な実践の取り組み事例を報告し、それらの成果と課題を整理し、小中を橋渡しするための今後の方向性を示唆した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計1件)

1. 萬谷隆一・中村香恵子・神林裕子・中村邦彦(2010,10)「小学校教師と中学校教師の潜在的意識の違い；授業 VTR 視聴後の討論プロトコルの分析を通して」JASTEC 研究紀要(29),17-30 (日本児童英語教育学会)、査読有

[学会発表] (計2件)

1. Yorozuya, R. (2010) Understanding Differences between Primary and Junior High School English Language Education: From the Viewpoint of Teacher Belief Research, Pusan University Academic Conference: Perspectives on Primary and Secondary level Education in Asia (Pusan, Korea 2010, 1, 22)
2. 萬谷隆一・中村香恵子・神林裕子・中村邦彦(2009)第35回 全国英語教育学会 鳥取研究大会「授業研究フォーラム：小中連携に向けた授業改善：教師の意識の差異分析」鳥取大学。

[図書] (計1件)

1. 萬谷隆一、直山木綿子、卯城祐司、石塚博規、中村香恵子、中村典生(編著)『小中連携 Q&A と実践 - 小学校外国語活動と中学校英語をつなぐ 40 のヒント』開隆堂。2011、1~167

[その他]

北海道教育大学小学校外国語活動コミュニティ CELENET  
<http://celenet.info/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

萬谷 隆一(YOROZUYA RYUICHI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：20158546

(2) 研究分担者

石塚 博規 (ISHIDUKA HIROKI)

北海道教育大学・教育学部・教授

研究者番号：50364279

中村 香恵子(NAKAMURA KAEKO)

北海道工業大学・総合教育研究部・准教授

研究者番号：40347753